

(Translation)

Mailed: September 7, 2004

NOTIFICATION OF REASONS FOR REJECTION

Patent Application No.: 2002-199941

Examiner's Notice Date: August 31, 2004

Examiner: S. Tsukuba

This application is rejected on the grounds stated below. Any opinion about the rejection must be filed within 60 DAYS of the mailing date hereof.

REASONS

The inventions recited in the following claims are unpatentable under Section 29 (2) of the Patent Law, as being such that the invention could easily have been made by a person with ordinary skill in the art to which the invention pertains, on the basis of the invention described in the following publications distributed in Japan or a foreign country prior to this application or the invention made available to the public through electric telecommunication lines in Japan or a foreign country prior to this application.

REMARKS

- Claims 1 and 4
- Reference 1 or 2
- Note

Reference 1 discloses coloring the surface of a grindstone, so that the abrasive grain and the surface of the substrate are different.

Reference 2 discloses mixing a coloring agent into a grindstone when molding. The color of the coloring agent is a mere matter of design. A person skilled in the art would readily make the color different from the color of abrasive grain as needed.

- Claim 2
- Reference 1

Notification of Reasons for Rejection

Page 2/2

- Claim 3
- Reference 2

- Claims 5-7 and 9-10
- Reference 1
- Note

Reference 1 describes a visual check. Replacing the visual check with an image processing is a well-known technique. It would be unnecessary to indicate an example of such a well-known technique, and it would not be difficult to apply the well-known image processing technique to the invention described in Reference 1, thereby obtaining the present invention.

Reference 1 describes using of a low-viscosity liquid as a coloring agent, so that the coloring agent adhered to abrasive grain can be removed. As a result of this feature, the base of the abrasive grain is exposed (claim 7), and the color of the coloring agent on the surface of the abrasive grain is changed to a second color (claim 9).

References Cited:

1. Jpn. Pat. Appln. KOKAI Publication No. 7-218416
2. Japanese Utility Model Application No. 118642/85 (Jpn. UM Appln. KOKAI Publication No. 62-29256)

整理番号:A000202982 発送番号:326004 発送日:平成16年 9月 7日 1

拒絶理由通知書

FILED 10-14-04

特許出願の番号	特願 2002-199941
起案日	平成16年 8月31日
特許庁審査官	筑波 茂樹 9525 3C00
特許出願人代理人	鈴江 武彦 (外 5名) 様
適用条文	第29条第2項

16.11.-6

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1, 4
- ・引用文献等 1又は2
- ・備考

引用文献1は、砥石の表面を着色して砥粒と基体表面を異ならしめることが記載されている。

引用文献2には、砥石の成形の際に、着色剤を混在させる点が記載されている。着色の色は設計的事項に過ぎず、砥粒の色と異なる色とすることは、当業者が適宜なし得る一態様に過ぎない。

- ・請求項 2
- ・引用文献等 1

- ・請求項 3
- ・引用文献等 2

- ・請求項 5-7, 9-10
- ・引用文献等 1

整理番号:A000202982 発送番号:326004 発送日:平成16年 9月 7日 2/E

・備考

引用文献1には、目視によるチェックが記載されているが、目視チェックを画像処理に置き換えることは例を挙げるまでもなく周知慣用の技術であり、引用文献1に記載のものにおいて当該周知慣用の画像処理技術を適用して、本願発明のように構成することに困難性は見出せない。

また、引用文献1には、砥粒に付着した着色剤を除くために着色剤として粘性の低い液体を用いることが記載されているが、これにより、砥粒の地肌が露出されることとなる（請求項7）し、砥粒表面の着色剤の発色を第2の色に変化させる（請求項9）こととなる。

引用文献等一覧

1. 特開平7-218416号公報
2. 実願昭60-118642号（実開昭62-29256号）のマイクロフィルム

この拒絶理由通知書中で指摘した請求項以外の請求項に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 IPC第7版 B24B49/12, G01N33/40

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この通知の内容に関する問い合わせ： 特許審査第二部生産機械

TEL:03-3581-1101(内)3324 FAX:03-3501-0530

担当 筑波

公開実用 昭和62- 29256

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭62- 29256

⑬ Int. Cl. *

B 24 D

7/06

3/28

3/34

識別記号

庁内整理番号

7712-3C

7712-3C

7712-3C

⑭ 公開 昭和62年(1987)2月21日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 石材やコンクリートの練成物等の表面研磨砥石

⑯ 実 願 昭60-118642

⑰ 出 願 昭60(1985)7月31日

⑱ 考 案 者 河 田 謙 三 高松市紙町535番地
⑲ 出 願 人 有限会社 河田エンジ 高松市紙町536番地
ニヤリング

⑳ 代 理 人 弁理士 馬場 五男

明 細 書

1. 考案の名称

石材やコンクリートの練成物等の表面研磨
砥石

2. 実用新案登録請求の範囲

型盤に所要方向の楕円孔群を穿設し、この各楕円孔にその上部まで合成樹脂液と適量のダイヤ粒及び石粉等の研磨材を流入し、その流動研磨材の上にダイヤ粒や石粉並に着色染料等に合成樹脂液を混入した着色流動物を充填して、その上に回転盤を接着し、これが硬化後脱型して回転盤に研磨突子群を設けてなる石材やコンクリートの練成物等の表面研磨砥石。

3. 考案の詳細な説明

イ. 考案の目的

本案は石材やコンクリートの練成物等の工作物の表面を研磨する砥石に関するもので回転盤に配設する所要方向の楕円突子群の下部に着色部を設けて石材やコンクリートの練成

図 1

7(1)8

実開特 29256

公開実用 昭和62- 29256

物の研磨中に、研磨突子群の磨耗による消失により回転盤を損傷しないようにしようとする目的である。

ロ. 考案の構成

本案は図面に示すように、型盤 A に所要方向の楕円孔群 1 . . . を穿設し、この各楕円孔群 1 . . . にその上部まで合成樹脂液と適量のダイヤモンド及び石粉等の研磨材 2 を流入し、その流動研磨材 2 の上に、ダイヤモンドや石粉並に着色染料等に合成樹脂液を混入した着色流動物 3 を充填して、その上に回転盤 B を接着し、これが凝固後脱型して回転盤 B に研磨突子群 1' . . . を設けてなる構成に係るものである。3' は突子群の下部の着色された部分を示す。

ハ. 考案の効果

本案は、上記のように構成してあるから、研磨突子群 1' . . . はその下部に着色部 3' を形成するために、研磨中に研磨突子群 1' . . . が磨耗に従つて着色部 3' に達すると、研磨水

が着色される。研磨水が着色すると、研磨突子群 1' . . . の磨耗の限界を知り、回転盤 B に達する前に、新しい研磨突子群 1' . . . を形成した回転盤 B と取替えるから回転盤 B を損傷することがない。而して、研磨突子群 1' . . . の消失した回転盤 B は再度研磨砥石に再生して使用することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は脱型した本案砥石の斜面図、第 2 図は型盤 A と回転盤 B との断面図を示す。

A : 型盤、B : 回転盤、1 : 梅花孔群、1' : 研磨突子群、2 : 研磨材、3 : 着色流動物、3' : 着色部。

出願人 有限会社河田エンジニアリング

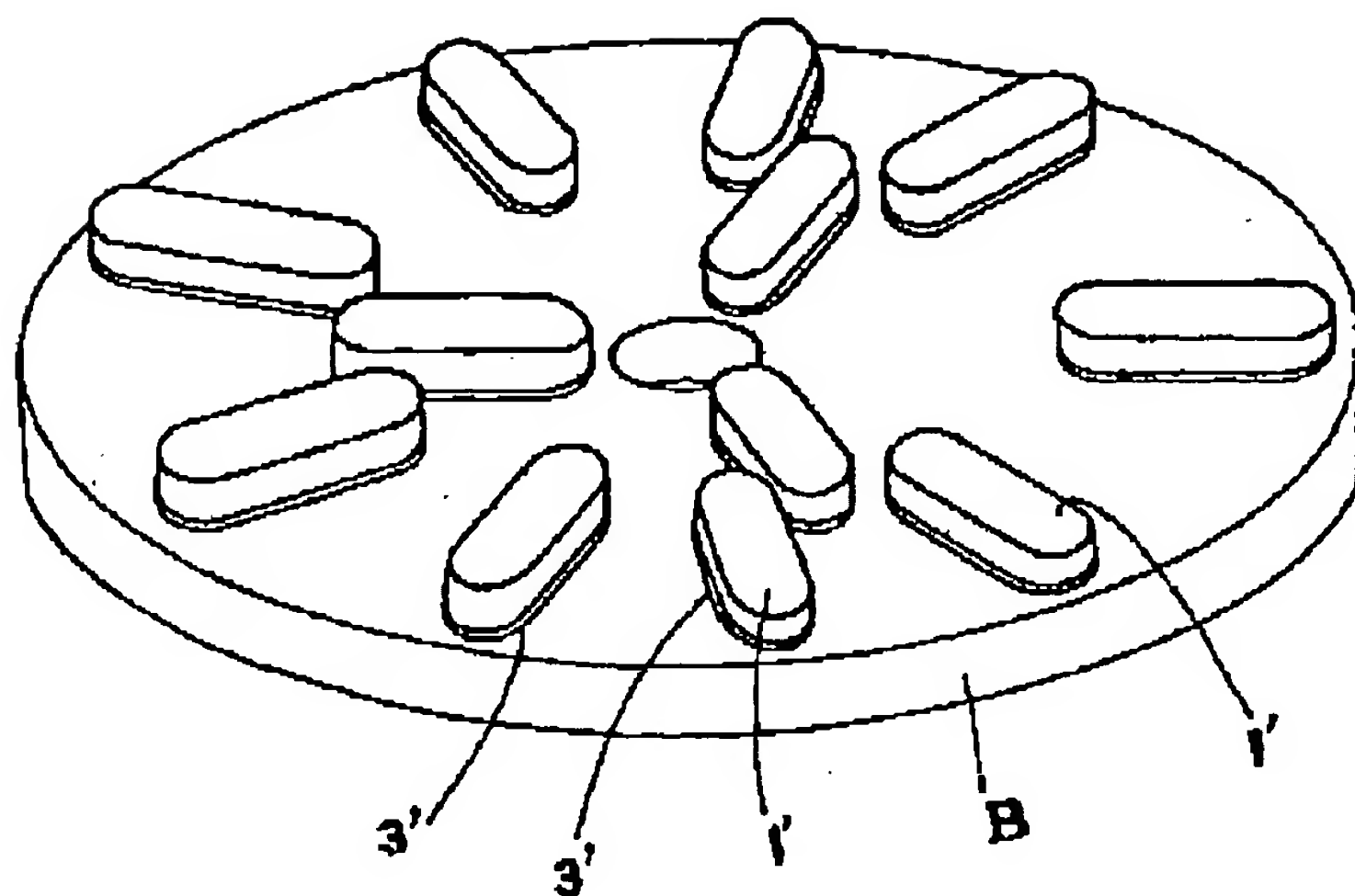
代理人 馬 場 五 男

710

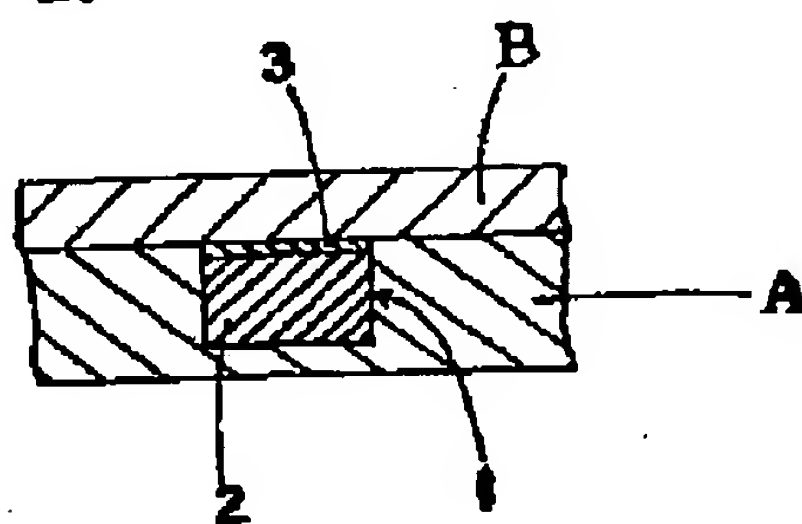
163

公開実用 昭和62- 29256

第 1 図



第 2 図



711

代理人 馬場 五男